

組み込み開発力を競争力の源泉に マルチコア対応Linuxプラットフォーム

● ネットワーク化するデバイスを、 低コスト、短期間に開発する

NGN (Next Generation Network) は、訳すと「次世代ネットワーク」になりますが、すでに現在のネットワークとその上で提供されるさまざまなサービスを包含した概念として、「前世代」から語られてきたものです。NGNが一般化した現在、多くのデバイスは、ネットワークに接続されることを前提に開発されるようになりました。そのため、組み込みソフトウェア(デバイスソフトウェア)には、より多くの役割が求められるようになってきました。

組み込みソフトウェアの中で広く採用されているのがLinuxです。ライセンス料金が低く済むため、製品を広く市場へ展開するケースで、需要が高まっていることがその背景にあります。

一方、自社で組み込みソフトウェアを開発する企業がまだまだ多いのも実情です。自社開発の組み込みソフトウェアは、市場展開の際のライセンスコストが無料であり、自由に開発できるため、あらゆるニーズに対応できることが魅力であるという考え方が、その根底にあるためです。しかし、その考え方は一概に正しいとは言えません。

理由は、リソースです。開発には人的リソースが必要になりますし、それを保守・アップデートする際にも投資が必要になります。自由度を高めるためにもそれだけ開発にリソースを割かなければならず、この部分は単に人数を増やせば解決できるといった問題ではないため、開発期間は長期化してしまいます。自社開発の組み込みソフトウェアは、確かに展開する費用は無料かもしれませんが、こうした開発部分にかけているコストを配賦すると、実際には高額なソリューションになっているケースが多く見られるようです。

Linuxをコアとして自社開発するケースも同様です。高品質な製品を、低コストに、かつ短期間で市場投入したいと考える企業にとっ

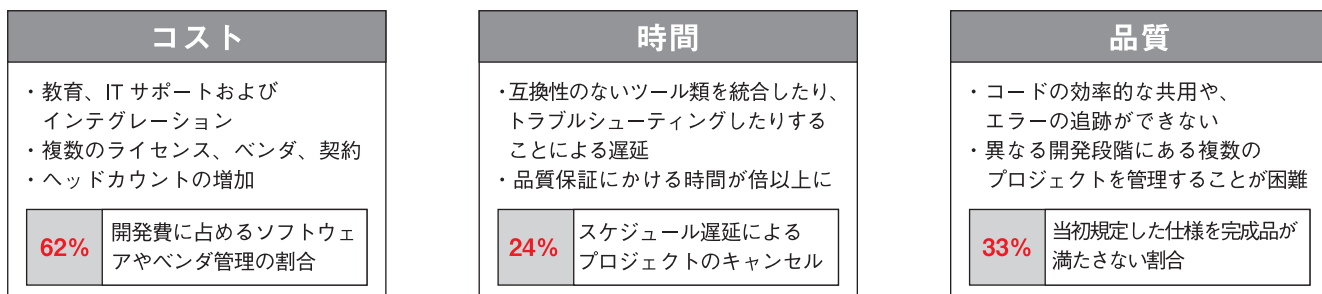
て、最適な選択肢、それは、信頼性を担保してくれる組み込みソフトウェアメーカーが低コストに提供してくれるLinuxを採用することにほかなりません。

● ネットワーク化するデバイスを、 低コスト、短期間に開発する

組み込みソフトウェアを考える際には、CPUとOS、ミドルウェア、開発ツールの組み合わせがほぼ無限になることにも注意が必要です。CPUについて言えば、「昨日の最新スペックは明日のオールドバージョン」という状態です。この中で、その他のレイヤーをCPUに依存する組み合わせで選定したり、自社開発したりしていれば、次の製品を開発する際に、また新たに選定し直したり、開発をやり直したりしなければなりません。それだけではなく、人材のトレーニングもやり直しになります。

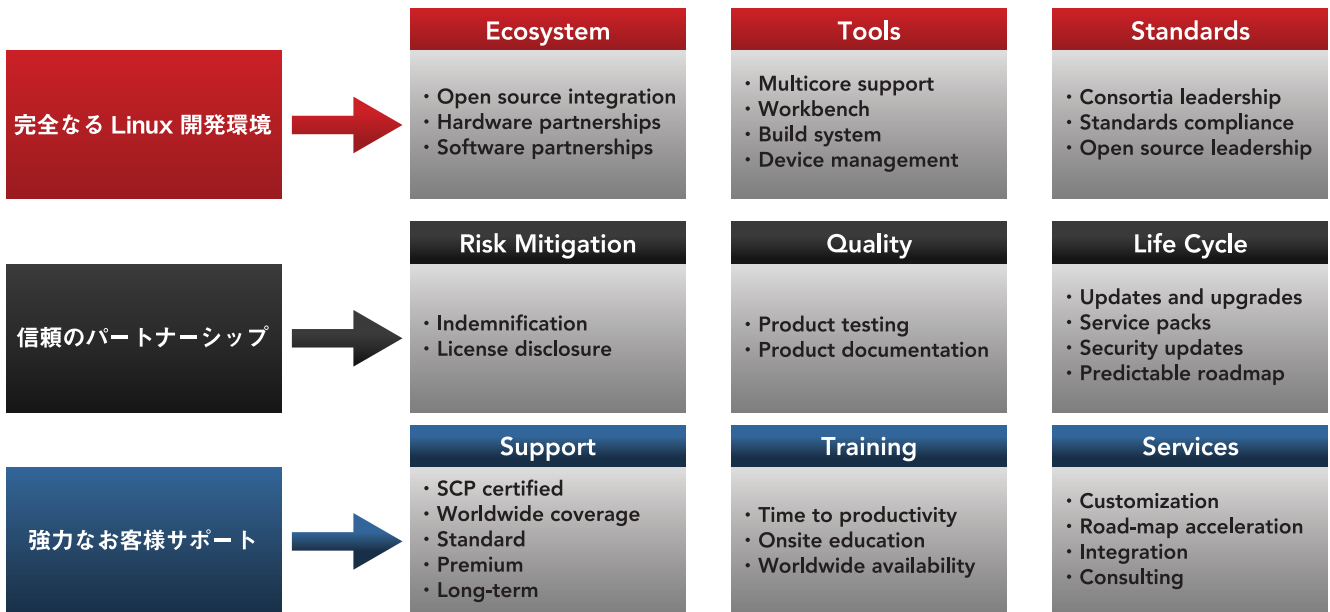
製品開発プロジェクトは複数の開発グループから構成され、ベテラン技術者から若手まで、社内技術者だけでなく社外のパートナーまで、多くのスタッフがかかわります。その整合性を取ることも、コストを予算内に抑え、開発期間を遵守し、品質を安定させる近道になるのですが、開発グループごとに異なるツールを使っているケースも多く、開発現場の課題として顕在化してきています。

これらの課題を解決するために最適なものが、CPUを横断的に使用でき、OSとミドルウェア、開発ツールを包含した統合ソリューションです。Wind River Workbenchが、それに当たります。Workbench上で開発を進めれば、CPUが進化しても、技術者のスキルをそのまま次の製品開発につなげることで連続性を担保し、プロジェクトメンバー全員が同じ環境を利用することで、プロジェクトの整合性を維持することができるのです。



連続性のない開発プロセスを避ける

Wind River Linux Values



● 製品開発に競争力をもらす Wind River Linuxの3つの強み

数ある組み込みLinuxの中で、Wind River Linuxは3つの強みを持っています。1.完全なるLinux開発環境、2.信頼のパートナーシップ、3.強力なお客様サポート、の3つです。これから、それぞれについて見ていきましょう。

1.完全なるLinux開発環境

ウインドリバーは、ハードウェアメーカー、ソフトウェアメーカー、およびオープンソースコミュニティと良好な関係にあり、組み込みLinux開発におけるエコシステムを構築しています。マルチコアCPUにもいち早く対応し、BSP (Board Support Package)を提供することで、企業の製品開発プロセスを前倒しすることを可能にします。

柔軟な組み込みソフトウェア開発を可能にするWind River Workbenchを中心に、Linux開発に求められるさまざまなツールも用意し、ワンストップの組み込みLinux開発環境を提供します。

Linuxの標準を遵守するだけでなく、ウインドリバーがそれに付加価値を加えるために開発した技術は、オープンソースコミュニティへと還元しています。このため、ウインドリバーの技術は次世代の標準技術として採用されることが多く、ウインドリバー製品のユーザーは、次世代の標準技術を持つ先進機能をいち早く採用し、製品の競争力を高めることができます。

2.信頼のパートナーシップ

ウインドリバーは、ユーザーの製品開発プロセスにおけるリスクを軽減し、製品の品質を高め、製品ライフサイクル全体を視野に永続的な支援を提供します。

製品のテストや文書化の徹底、さらに、ハードウェア／ソフトウェアパートナーとの緊密な連携といった厳格な開発プロセスを経て、ユーザーが必要とする最先端の機能をリリースしています。

組み込みソフトウェアが製品力そのものに大きくかかわってくる以上、製品ライフサイクルを通じたサポートは不可欠です。Wind River Linuxは、アップグレードやサービスパックのリリース、セキュリティのアップデートを定期的を実施するとともに、開発ロードマップを公開し、今後開発する新機能の方向性を常に開示するよう努めています。

3.強力なお客様サポート

製品開発におけるグローバルなコラボレーションが浸透する中、ウインドリバーは全世界で均質なサポートを提供できる体制を整え、長期にわたってユーザーをサポートします。サポートプログラムは、SCP (Service Capability and Performance) サポート標準の認定を取得済みです。

エンジニアの生産性を高めるために不可欠なトレーニングも提供します。ウインドリバーのトレーニングルームを利用した集合研修だけでなく、開発現場に向いて行うオンサイト・トレーニングも全世界で利用可能。製品のカスタマイズや他の環境との連携など、詳細なユーザーニーズにこたえることのできるコンサルティングおよびサービスメニューも充実させています。

WIND RIVER ウインドリバー株式会社
http://www.windriver.co.jp

東京本社 〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-1-39 恵比寿プライムスクエアタワー TEL.03-5778-6001 (代表)
大阪営業所 〒532-0011 大阪市淀川区西中島7-5-25 新大阪ドイビル TEL.06-6100-5760 (代表)

© 2010 Wind River Systems, Inc. Wind River ロゴは Wind River Systems, Inc. の商標です。Wind River、VxWorks は、Wind River Systems, Inc. の登録商標です。記載されているすべての名称は、各社の登録商標、商標またはサービスマークです。Rev. 04/2010